

ALBERTINA

2012 年度 出展プログラム

印象派

パステル、水彩画、デッサン

2012年02月10日 - 05月13日

展示では、印象派および後期印象派画家たちによる、特にその卓越した仕事を紙面上に表現することを目的とした 200 点以上のパステル、水彩画、デッサンが紹介されます。このテーマだけに集中した展示は国際的に初めてです。印象派および後期印象派画家たちの中で、この試行はまさに絵画における将来を示唆する近代派と同等のランクに到達しました。

一方では最高の知名度のモネ、デガス、ルノアール、ピサロ、マネ、スラー、シニャック、セザンヌおよびゴーギャンたちの絵画と並んで、他方ではそれらにまったくひけをとらない印象深い紙面上での作業は案外知られていません。準備的な研究材料としてのその二次的応用の他に、素描に基本的機能を見出し、それを完結した独自の芸術として確立させたのはすべてこの芸術家たちの功績です。



エドガー デガス、タブの婦人
1883年
紙面パステル
著作権所有© Tate, London 2011



エドゥアルド マネ、アヤメ、キング
サリ、ゼラニウムの花飾り、1880
年、水彩画、アルバーティナ、
ウィーン



ポール ゴーギャン、マーティニ
クの土人、1890年、水彩、黒イ
ンク、カレッジ
ジャンとマリー-アンネ クルギエ-
ボニアトウスキのコレクション

グスタフ クリムト デッサン

2012年03月14日 - 06月10日

グスタフ クリムトのデッサンの最も好まれる理由は特に、彼の女性的動作研究を通じた誘惑的な官能性にあります。彼の素描の陰影の複雑な重なり合いがいかに印象的かは、グスタフ クリムト デッサンの展示においてご自身の眼でお確かめいただけます。アルバーティナは、170 枚からなる最も有名なクリムト作品の大部分を展示します。オーストリアならびに海外からのコレクションから特別貸し出しが展示を盛り上げます。展示は、容姿研究、記念碑的作業デッサンならびに絵画的な寓喩等の、内容の充実したスペクトラムが期待できます。儉約的な技術資材を用いて、クリムトは人を魅惑させる効果を創造しました。チョーク、鉛筆あるいはカラー鉛筆、時には羽ペンあるいは水彩カラーとゴールドカラーも用いました。アルバーティナには、クリムトが重要な風喩画あるいはポートレート画に用いた一連の容姿研究作品があります。これらのシートにおいて、彼はステップバイステップで特定の体形位置、動きの真髄あるいはフィーリングの会得への基盤へ進んで行きます。各シートはそれぞれ独自の重要ポイントを持っています。

まさにこの稀な一連の展示作品は、この芸術家が自身の事について事実上、一度も言葉で表現しなかった彼の作業方法ならびに精神的な世界への一瞥を提供します。



グスタフ クリムト
ケープと帽子を装った夫人、3/4 プロフ
ァイル、1897-1898年
黒と赤のチョーク
アルバーティナ、ウィーン



グスタフ クリムト
黒いフェザーハットの婦人、半身画、
1907-08年
毛筆、羽ペン、トゥーシェ、鉛筆、赤色
鉛筆



グスタフ クリムト
婦人頭部の素描、3/4 プロファイル
"ペーターベンフリース"の"不節制"の場
面用、
1901-1902年

ヴェルナー コレクション

キルヒナー-ヘッケル-ノルデ

2012年06月1日 - 08月26日

第二次世界大戦後に普通の秘書から著名な絵画商ウィルヘルム グロスヘニング(デュッセルドルフ)の右手となり、1960年頃から熱烈な芸術収集家となったひとりの婦人の奇想天外なコレクションが、この展示会に出展されます。展示作品の選択は約90点で、ドイツの印象派を重点としています。エリヒヘッケル、エルンスト ルードヴィヒ キルヒナーおよびエミル ノルデの突出した作品群の他に、19世紀のドイツ芸術とピカソ、マティッセやモジリアーニ等の西ヨーロッパの巨匠たちの注目に値するアンサンブルからの作品も紹介されます。



エリヒヘッケル
眠る少女、1912年
厚紙上に鉛筆と水彩で作成
アルバーティナ、ウィーン-ヴェルナー
コレクションからの長期貸し出し



フランツマルク
座っている虎、1913年
水彩(ミュンヘンのDr. Hanna Wolfskehl
女史への葉書)
アルバーティナ、ウィーン-コレクシ
ョンからの長期貸し出し



エミルノルデ
2 蒸気船、1915年頃
和紙上の水彩
アルバーティナ、ウィーン-ヴェルナー コレ
クションからの長期貸し出し

ジョエル スターンフェルド

1970年以降のカラー写真家

2012年06月27日 - 09月30日

米国の写真家ジョエル スターンフェルド(1944年ニューヨーク生まれ)は30年以上に渡る仕事からの約130点の回想写真を、エッセン州のフォルクヴァング美術館との共同でアルバーティナにて紹介します。ジョエル スターンフェルドは、1970年代に芸術写真のためのカラー技術を発見したNew Color Photographyの最も重要な代表者に数えられています。ジョエル スターンフェルド- 1970年以降のカラー写真家のタイトルの下で、合計11のプロジェクトが展示されます。その重点は、彼が1969年から1970年後期に渡る初期の時代の、現在まで公開しなかった50点の写真です。スターンフェルドの観点はいつも彼の故郷アメリカであり、その特徴、人々およびその独特な風景に向けられています。この芸術家の、国と住民への客観的な観察は、理想郷と暗黒郷の間のアメリカを強く訴えかけるイメージを生み出します。



ジョエル スターンフェルド
ケリー レークランド空軍基地のスペースシャ
トルコロンビア、サンアントニオ、テキサ
ス、1979年03月
シリーズ：アメリカの展望
デジタルC-プリント



ジョエル スターンフェルド
マクリン、バージニアにて 1978年12月
シリーズ：アメリカの展望
デジタルC-プリント
著作権所有© Courtesy of the artist and



ジョエル スターンフェルド
ショッピングカートを集める若者、ハンティ
ントン、ニューヨーク、1993年07月
シリーズ：通りがかりの見知らぬ人
C-プリント
著作権所有© Courtesy of the artist and

ボディ プロテスト

2012年09月05日 - 12月02日

展示ボディ プロテストは、写真による身体のパレゼンテーション - 頻繁に、様々な写真家たちの社会的、政治的あるいはまた芸術美学的定型に対する視覚的プロテストの過激な表現フォームとなった、ひとつの動機をテーマとしています。

この展示の中心は、アルバーティナの所有による芸術家ジョン コプランズの卓越した作品群から構成されます。シリーズで撮影された大判写真において、この芸術家は彼独自の裸体の細分観察を通して通常の身体の理想化とはまさに逆の、疎遠性の描写に集中しています。特別に綿密な照明を通して彼は自身を、時間を超越した記念碑的ならびに彫像的なシーンの中に捕らえました。

その他の芸術家たち、例えばハナー ウィルケ、ケティ ラロック、ハナー ヴィリガー、ブルース ナウマン、ロバート マップルトルベおよびタチアナ ルコンテも同様に、身体を芸術的対話の中心点にもたらしめました。これらのポジションは、コプランズの作品内のエッセンシャルな展望を強調しているだけではなく、1970年以來の人体の限界的表现に関する細分化された画像を提供しています。



ジョン コプランズ
連動フィンガー、自画像
作品番号 6, 1999 年
ゼラチンプリント
アルバーティナ、ウィーン



ジョン コプランズ
連動フィンガー、作品番号 17, 2000
年
ゼラチンプリント
アルバーティナ、ウィーン



ジョン コプランズ
フリーズ、作品番号 6, 1994
ゼラチンプリント
アルバーティナ、ウィーン

カイザー マキシミアン一世(1459-1519年)とデューラー時代の芸術

2012年09月14日 - 2013年01月13日

マキシミアン一世(神聖ローマ皇帝)の政治宣伝ならびに追悼記念用に製作された多くの重要な作品は、アルバーティナが所有しています。それにはアルブレヒト デューラーの作品も数えられますが、アルブレヒト アルトドルファーによる格別な凱旋行進ならびに、展示の中心にセットされた彼の工房もまたとても価値の高い見ものです。本来は 109 枚の大判羊皮紙上に騎馬隊、豪華絢爛な馬車の列および傭兵たちが色彩豊かに描かれたもので、アルバーティナでは 49~109 枚のシートを連ねて 54 メートル以上の長さにも及ぶ壁画ストライプとして展示します。

この世界的に唯一の作品の他に、皇帝発注による記念碑的な彫刻作品-登竜門ならびに書籍集 *Theuerdank*、*Weißkunig* および *Freydal* が展示され、これらは事実と寓話とが互いに絡み合った皇帝自身の自伝とされています。カイザー マキシミアン一世(神聖ローマ帝国)は、欧州全般に渡る豪華絢爛な軍隊構成と武器を誇張した騎士道ルネッサンスの初期の皇帝なのですが、19 世紀以降、「最後の騎士」として名付けられています。この展示は多くの他のテーマと並んで、当館独自のコレクションからの多くの例を用いたマキシミアン時代の芸術の華麗な一面も紹介され、さらにニューヨークのメトロポリタン美術館、ベルリンの版画キャビネット美術館ならびにウィーン的美術史美術館等の国際的美術館からの重要な貸し出し作品を加えて彩りを添えています。



アルブレヒト デューラー
インスブルックの北方からの眺め、1496年
頃
水彩、オパーク色の痕跡、白オパーク色上を
上書き
アルバーティナ、ウィーン



アルブレヒト デューラー
カイザー マキシミアン
一世(神聖ローマ帝
国)、1518年
黒チョーク、カラーチョ
ーク、白チョークへ上書
き
アルバーティナ、ウィ
ーン



アルブレヒト アルトルファー
ドイツ国王、1513-16年頃
羽ペン(茶色)、水彩とオパーク色、金上塗り、羊皮紙使用
アルバーティナ、ウィーン

モネからピカソまで バトリナーのコレクション

継続展示 - 2週間の間断の後に2012年03月13日より再展示開始

„モネからピカソまで“ のタイトルの下に、アルバーティナは特にバトリナーコレクションからの多くの古典的な近代派の絵画を展示します。このコレクション展示は、印象派およびフォーヴィスム(野獣派)からドイツ表現派ならびにバウハウス美術館(ワイマール)を経てロシア前衛派までの新たな出展期間をカバーしています。この展示の末尾は、20世紀初期の戦争、革命ならびに分断から戦後の時代までを体験したピカソの絵画で飾られています。



エンリド トゥールーズ-ロートレック
白馬 „ガゼレ”、1881年
アルバーティナ、ウィーン-バトリナーコレ
クション、写真：著作権所有© Fotostudio
Heinz Preute, Vaduz



アマデオ モジリアーニ
シャツを纏った婦人、1918年
アルバーティナ、ウィーン-バトリナー
コレクション



パブロ ピカソ
緑色の帽子を被った婦人、1947年
アルバーティナ、ウィーン-バトリナーコ
レクション